

雅ねえの、みんなで取り組む

# 獣害対策講座 Vol.17

※タイトルに記載している『雅ねえ』の表記は、本人の原稿どおりで掲載の了承を得ています。

おさらいと予習

前回

前回はサルの話、したよ。  
サル対策ってとにかく地域住民みんなの追い払いが大切。一度は駆除で数が減っても住民が何もしないところはその後必ずサル地獄に陥るから、しっかり読み返しておいてね。

今回

サル、シカ、イノシシなんか問題になる地域って問題になる前にすでに自分たちで増やしてしまってる動物がいる。

それがテン、アナグマ、タヌキといった中型獣。そしてこういった獣が増える所って、もし外来のハクビシン、アライグマが侵入してきたら爆発的な増え方しちゃう可能性もあるって話だよ。

テン、アナグマ、タヌキ、ハクビシン、アライグマ見分けられるかな

オツと、皆さんぱっと一瞬シルエット見てテン、アナグマ、タヌキ、ハクビシン見分

けられるかな？

大崎町ではまだ、被害の話聞かないけれど、知識として知っておいてほしいのがアライグマね。

テン、イタチ、タヌキ、アナグマ、アライグマ。

もしこうした動物による何らかの被害が出たとしても、基本的な考え方は同じ。

もう、わかってくれたと思うけど、動物は「安心して食べる所に住みたいだけ」

被害とは動物に「ここは安心して住める」って思わせただけ。

思わせるのは簡単。  
潜み場と一年中食べていける餌を準備してあげる。

これを餌付けっていうのね。知らず知らずのうちに潜み場と餌を揃えて餌付けしてるのはあなた。

だから、こうした小型の動物も対策は餌付けやめたらいいだけ。

なんだけどお、穴掘るのが得意なやつとか、やたら壁とか柱とか上るのが得意なやつとか種類によっては対策も変わってくる。

だから、できるだけきちんとして来てる獣が何かは突き止め

ておきたいわけ。

見分けるヒント

頭下にして高いところから下りて逃げた

「カキの木から頭を下にして降りて逃げた」っていう時ね。

木登り上手は頭を下にして、へたくそは頭を上にして降りてくる。頭が下向きなら、テン、ハクビシン、アライグマの可能性大(ほかの特徴思い出してみて)

「うーん、一瞬しか見えなかったけど太い尻尾に黒い輪っかが何本か見えた。」

：はいアライグマ(確定)

「シルエットだけど、なんか体の大きさにしては尻尾が長かった。」

：ハクビシンですね(確定)

「わりと小さくて長い体で足は短い感じ。」

：テンかイタチだわ(ほぼ確定)

木登りヘタなのはタヌキやアナグマ。ケージなんかで飼育すると金網そろそろ上るとあるけど、基本野生個体は木登りはしない。  
登ったとしても、せいぜい

低いところから主枝を分岐させてる開心自然系仕立ての果樹の古木とか程度。

顔や姿勢で判断

「畑で見かけたんだけど、目の幅で縦に顔に黒い影があるけど顔全体は明るい感じ」

：アナグマです。(確定)

「逃げて行くのをみたけど頭低くしてかかんで歩いてるみたいだった」

：これもアナグマね(確定)

「目からは黒っぽい感じ、肩よりも高く首あげて遠くを見てた」

：そりゃタヌキだ(確定)

「千鳥足でツツジの陰に座りこんで隠れた」

：それは酔っぱらった隣のおっちゃん。

うんこも大切なヒント

「庭石やコンクリートの上に小指くらいの太さでブドウとかナンテンの種とかが混じったうんこがある」：はい、うんこで縄張りを主張するテンの可能性大ですね(ほぼ確定)

「生垣の株元にすごいうんこの山ができてる」  
：ためグソするのはタヌキし